Cover History

ー 表 紙 写 真 由 来 ー

# 急斜面で合流する日向用水

—宮崎県高千穂町—

宮崎大学農学部　竹　下　伸　一

## 1．はじめに

**表紙写真**は，宮崎県高千穂町の北東部を流れる日向用水にある合流工である。日向用水は本誌第92巻第2号[1]ですでに紹介されているもので，世界農業遺産に認定されている高千穂郷・椎葉山地域を代表する山腹用水路の一つである。岩戸川の右岸斜面上を流れる日向用水の流路のほとんどは，傾斜角7.7～48.4°の急な山腹斜面上に敷設されており[2]，この合流工もまた標高500 m，約15°の斜面上にある。写真には岩戸川の左岸側を流れる岩戸用水掛かりの棚田も写っていて，周囲の地形的な状況もわかる写真となっている。

## 2．加えられる水

日向用水の水源は，天照大神が岩戸の陰に隠れた伝説で有名な天岩戸神社から，さらに大分県との県境に向けて山道を10 kmほど上がった中野内にある（**図-1**）。**写真-1**の取入口は，現在の第1水源となっていて，**写真-2**のような水路を経て，常光寺の滝へと送られる[1]。これが主要な水路であるが，実は日向用水には，そこから5 kmほど下った上岩戸大橋付近の渓流から水を得る**写真-3**のような簡素な頭首工が存在

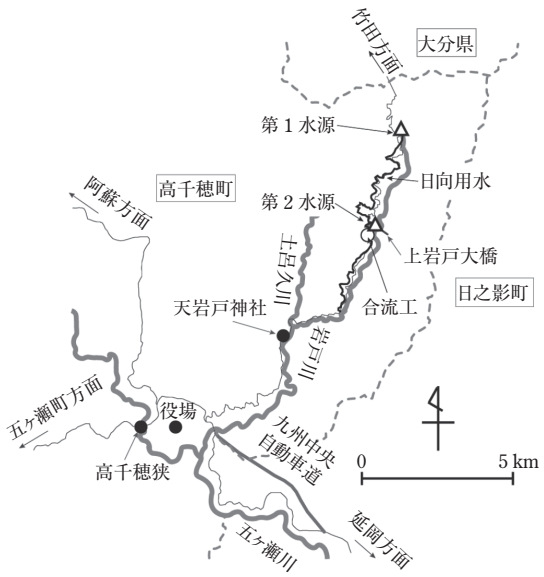


**図-1**　日向用水と合流工の位置図

**写真-1**　第1水源の取入口

**写真-2**　第1水源付近の水路

**写真-3**　第2水源の頭首工

**写真-4**　合流直前の２つの水路

**写真-5**　合流工

する。ここは第２水源として機能していて，この水源で得られた水は，第１水源からの水と同じく**写真-4**のように山腹斜面上の山腹用水路を流れていき，やがて第１水源からの山腹用水路と斜面上で出会うのである（**写真-5**）。

## 3．おわりに

世界農業遺産認定の高千穂郷・椎葉山地域には，このようにようやく水源を確保し水路を開削したものの，水量の不足に悩まされたため，後に補助水源を得ている用水路が多数存在する。地形や水量などさまざまな制約の中で，知恵を巡らせて用水を維持しているさまに出会うと，いつも感嘆の声があがる。ただ，それは，裏を返すと水路組織が複雑で，平地の用水路に比べて管理負担が大きいことを示してもいる。

この地でひっそりと息づく，このような水路・水利施設にこれからもスポットを当てて，その独特な機能美を紹介することで何かしらの一助になれればと思っている。

## 引　用　文　献

1）竹下伸一：日向用水の水路橋―宮崎県高千穂町―，水土の知 92(2)，pp.48～49（2024）
2）竹下伸一，北村優衣：宮崎県世界農業遺産地域における農業用水路敷設地の地形的特徴，水土の知 87(3)，pp.31～34（2019）